

西国巡礼慈悲の道

西国第十一番 醍醐山

上醍醐・准胝堂

あわれしるこころ

座主 仲田順和

京都—この古い都の長い

歴史・時の流れは、多くの夢とときめきをもたらしませす。水の都とも呼ばれるように清らかな澄んだ川が流れ、その源には都を囲む山々があり、折々の語らいと祈りを秘めています。神々が集い、諸仏諸菩薩が雲集し、人々の生活を通して芸術が生まれ、文学が育まれてきた大きな舞台でもあります。

この都を舞台に紫式部は

『源氏物語』を創作しまし

た。物語の底を流れる精神は、私たち日本人の心のふるさとです。この物語の心は、今日を生きる私に、未来へ向かう姿勢を示唆し、鼓舞するものであります。だれもが世の乱れを思い、汚れを感じる時、この物語が描く神秘の都「平安京」が清々しさと、安らぎをいかに与え続けてきたかを思わずにいられません。

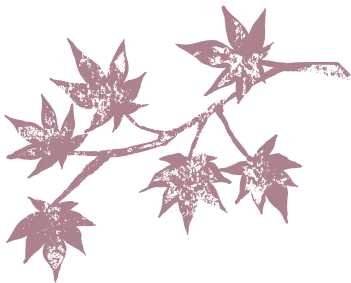
語り継がれてきた物語の

心を光源氏の一生が語りかけます。いつも「あわれしるこころ」を抱いている源氏びとたち、「心やわらか」な気持ちで、自分を素直に変えることの出来る女性たち、「色好み」の真髄でもある、相手の個性を尊ぶこととの上手な光源氏のような男性たち、登場する一人ひとりが「人間はなぜ生きているのだろうか?」「この世をどのように生きればよいか?」などの課題を見事に答え伝えていきます。

華麗・優雅な都びとの生活、華やかな恋愛、その底に流れる清々しい美を求め、朝な夕なに死に直面する厳しい巡り来る大きなドラマ、現代にすっかり失われてしまっているこれ

らの思いはこの物語に秘められています。「あわれしるこころ」とは、その人の身になって思い、みることでしよう。そして、その生き方に美を求め、月や雲、雪や花に自然を思いながら、時の経過はさまざまな道を導き、歴史として大きな広がりとなりましょう。

いま世界の人々は、この地に古の神秘の心を求めて、そして、その舞台にふれたいと京都を訪れます。



観音風光

「心の返し場所」
 私たちは、意識するとな
 ないにかかわらず、多くの
 人の心をいただき、生きと
 し生けるものの「いのち」
 をいただいで、生活してい
 ます。受けた心、受けた「い
 のち」のお返し場所を探し
 ながら生活するのが人の道
 である、とお観音様は私た
 ちに優しくご自身の行動で
 示されておられます。

主な年中行事

一月六日 初聖宝会
 二月三日 節分会星祭
 二月十五日～二十一日 五大力尊仁王会前行
 二月二十三日 五大力尊仁王会大法要
 三月春分の日
 春季彼岸会中日土砂加持大法要
 五月十八日 准胝観世音菩薩曼荼羅供大法要
 七月六日 開山忌
 八月五日 醍醐山万灯会
 八月六日 虫除け虫封じ祈願法要
 九月初分の日 秋季彼岸会法要
 毎日午前十時三十分と午後二時に下醍醐 観音堂でお勤
 め（観音経・般若心経を誦誦）しております。
 ※ご参拝および納経は下醍醐・観音堂で行っております。

〒601-1325 京都市伏見区醍醐東大路町22

TEL 075-571-0002

納経時間 午前9時～午後5時

(但し、12月第一日曜日の翌日～2月末日は午前9時～午後4時)

(拝観受付は閉門の30分前終了)

仏教用語一口解説

八苦とは

四苦に、人の心のありようから来る「苦」を加えたもの。①愛するものと離れねばならない苦しみ、②嫌なものに会わねばならない苦しみ、③欲しいものが手に入らない苦しみ、④その他の感情から生まれてくる苦の4つを加えて、八苦とされたのです。現在、非常に苦しむという意味でよく「四苦八苦だ」などといいますが、それは釈迦さまの説法から来た言葉なのです。

西国三十三所札所会ホームページ <http://www.saikoku33.gr.jp>

西国霊場にご参拝の時は納経帳や白衣を忘れずにご持参ください。2回目以降はご参拝の印として重ねて納経印をいただきます。

西国第十一番

醍醐山

上醍醐・准胝堂
かみだいご
 じゅんていどう

真言宗醍醐派総本山醍醐寺

御本尊／准胝観世音菩薩 開基／聖宝理源大師

逆縁も

洩らさで救う

願なれば

准胝堂は たのもしきかな